

未完

藤井 貴宏

寝る前に悪魔の囁きを聴いた とても恐くて眠れない僕に悪魔は生き続けることの  
苦行を教えた もう世界中からは許されてる僕にせめて現実くらいは  
生きろって何の根拠もない理由その先に何があると言うのか？  
糧にならない財産でいま精一杯の生きざま  
あっ僕は泣いてたのかな？  
笑った顔が無い 高校も出たけど至らぬ事ばかり世間は追い求めてくる  
まだ足りない明日を探しながら今と言う諦めの時効  
又思い出してる 単なる道化師さ 人を傷付けた僕に救いの手を差し伸べてくれた  
君の手が暖かい 血液のドロドロしたもの それが見えてるんだ 影も形も無いままに  
どんな明日だって人は平等だって信じたいよ けど僕は違うんだ  
当たり前なことやって生きてる中で自然に自分と向き合う時哀しみの十字架は重く氷と  
なって己に降ってくる  
いつだってそうだった 心はパンクしそうさ  
泣きたい 泣けない心の傷み 吐けない 吐ききれない心の葛藤  
そんなモヤモヤが心のルーティンの中にあって人を不快にすることでしか解決に  
ならなかったこの役立たずの身体 全身針で包まれてるみたいなんだ

でも君が居た頃は違った ふとしたことが優しさに変わってた

いまでもあなたと言う風に乗っかって自由をおうかしている旅人なのさ 僕は

あなたに銃を向けてきたね でも放つことはそれだけはできなかった

そこにあなたと言う存在があったからなんだろうね 僕の繋ぐ右手にはいつもあなたと

歩いた思い出が詰まってる

そしてこれからも数々のあなたのくれた光に手を伸ばすんだ

君と一緒に

ただ歩こう ただひたすら それが迷子の僕の生きて行く証になればいいな

君と歩いてる

君と歩いてく どこまでもずっと

胸には希望を抱えながら

僕らは自由だ